

2 研究の実際 > (2) 活動プログラムの実際

カ 検証結果<小学校>

【検証の視点 I - A : 関心】

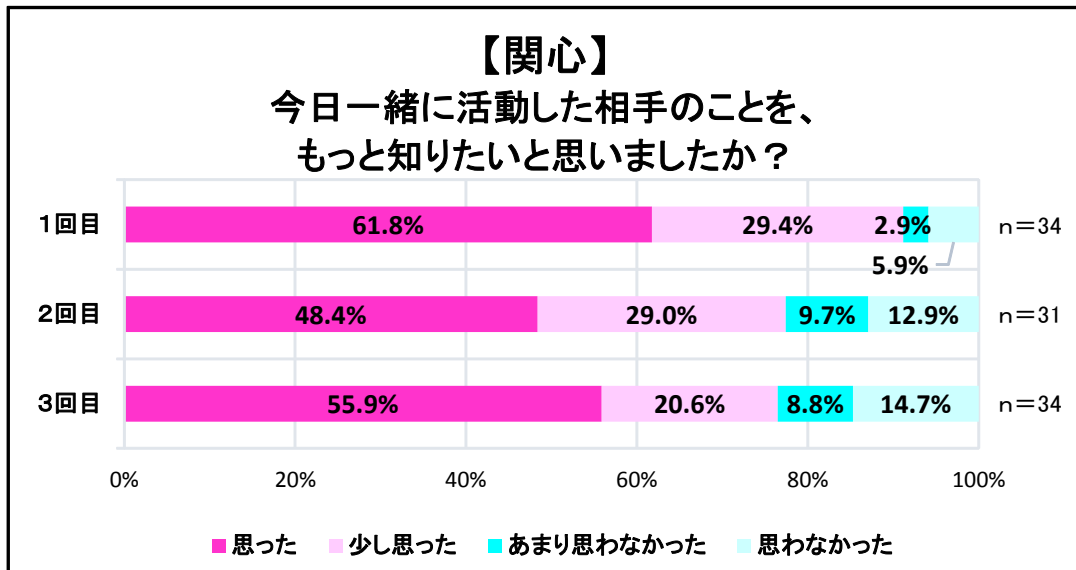


図1 児童の友達に対する関心の変化

○「思った」「少し思った」と回答した児童の割合は、1回目が91.2%、2回目が77.4%、3回目が76.5%でした。その理由として、「人それぞれ考え方が違うところがおもしろく、みんなのことを知ったらもっと仲良くなれると思うから」という記述が多く見られました。一方、「あまり思わなかった」「思わなかった」と回答した児童の割合は、1回目が8.8%、2回目が22.6%、3回目が23.5%でしたが、その理由として、「同じグループの人について、もうすでに知っているから」「前からよく知っているから」という記述が見られました。これらのことから、ほとんどの児童はグループでの活動を通して、学級の友達に対する関心を高めることができたと考えられます。

【検証の視点 I - B : 親近感】

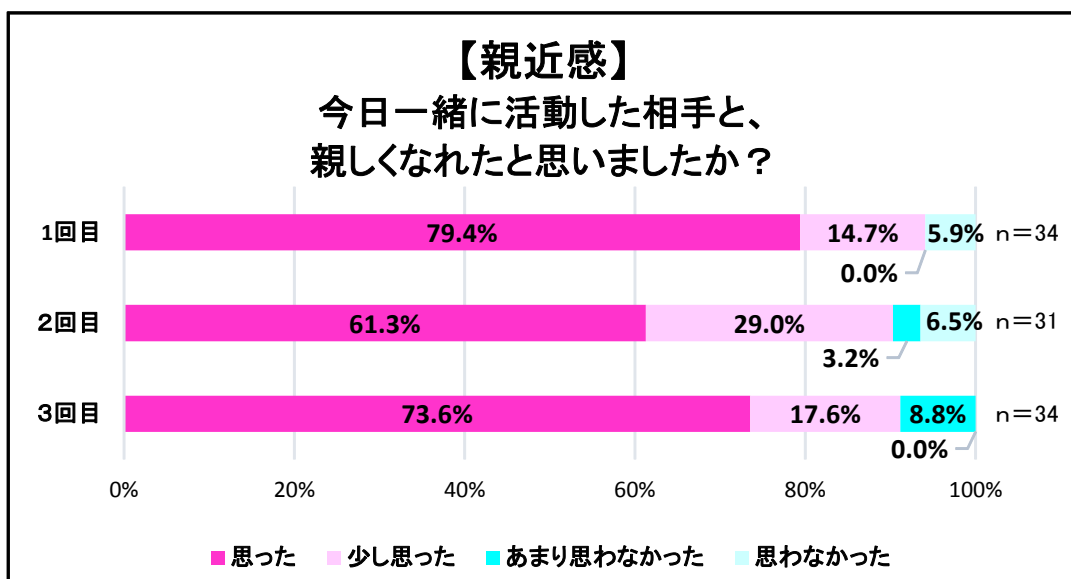


図2 児童の友達に対する親近感の変化

○「思った」「少し思った」と回答した児童の割合は、1回目が94.1%、2回目が90.3%、3回目が91.2%でした。その理由として、「前よりもたくさん話せるようになったから」「みんなで真剣に話し合うことができたから」という記述が多く見られました。一方、「あまり思わなかった」「思わなかった」と回答した児童の割合は、1回目が5.9%、2回目が9.7%、3回目が8.8%でしたが、その理由として、「もともと親しかったから」という記述が見られました。これらのことから、ほとんどの児童はグループでの活動を通して、学級の友達に対する関心を高めることができたと考えられます。

【検証の視点Ⅰ-C：仲間意識】

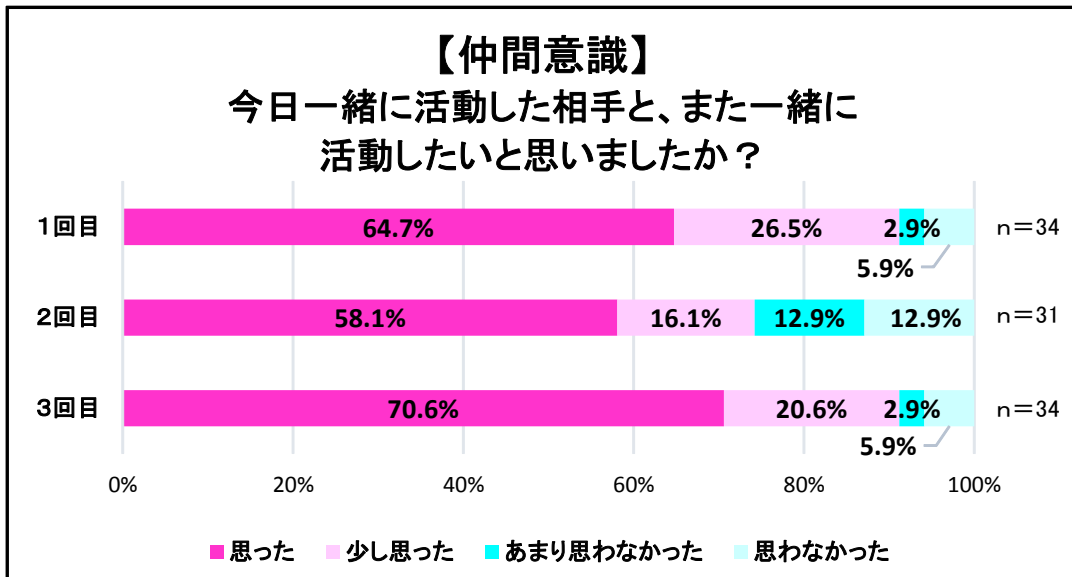


図3 児童の友達に対する仲間意識の変化

○「思った」「少し思った」と回答した児童の割合は、1回目が91.2%、2回目が74.2%、3回目が91.2%でした。その理由として、「みんなで楽しく活動することができたから」「もっと仲良くなりたいと思ったから」という記述が多く見られました。一方、「あまり思わなかった」「思わなかった」と回答した児童の割合は、1回目が8.8%、2回目が25.8%、3回目が8.8%でしたが、その理由として、「他の人とも仲良くなりたいから」という記述が見られました。これらのことから、ほとんどの児童はグループでの活動を通して、学級の友達に対する仲間意識を高めることができたと考えられます。

【検証の視点Ⅱ-A：学級の雰囲気】

オ 検証内容と検証方法 について

↑こちらをクリックすると、検証の視点を見ることができます。

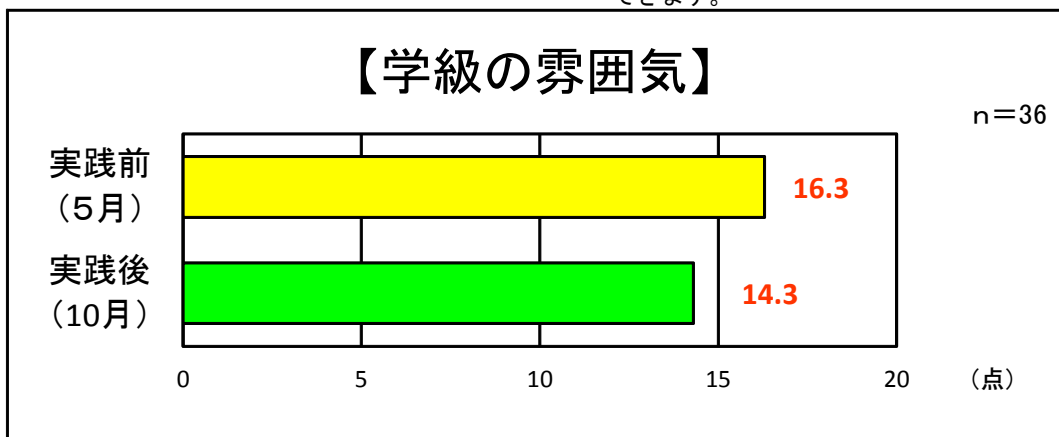


図4 児童の学級の雰囲気に対する意識と行動の変化(全体)

○活動プログラムにおける授業実践の前後で、数値が2.0ポイント下がりました（前頁図4）。学級の雰囲気における5つの質問項目を見ると、全ての項目で数値が下がっていました。しかし、児童のワークシート等には、「相手を大切に思う話し方をすれば、トラブルも少しは減ると思う」「今度トラブルが起きたときに、学習したことが役立つと思う」という記述が多く見られました。このことから、数値が下がった理由として、児童がグループでの活動を通して、これからの学級の雰囲気に対する期待感を膨らませたり、学級での過ごし方に対する意識を高めたりしたことにより、学級の今の状態を厳しく評価したと考えられます。

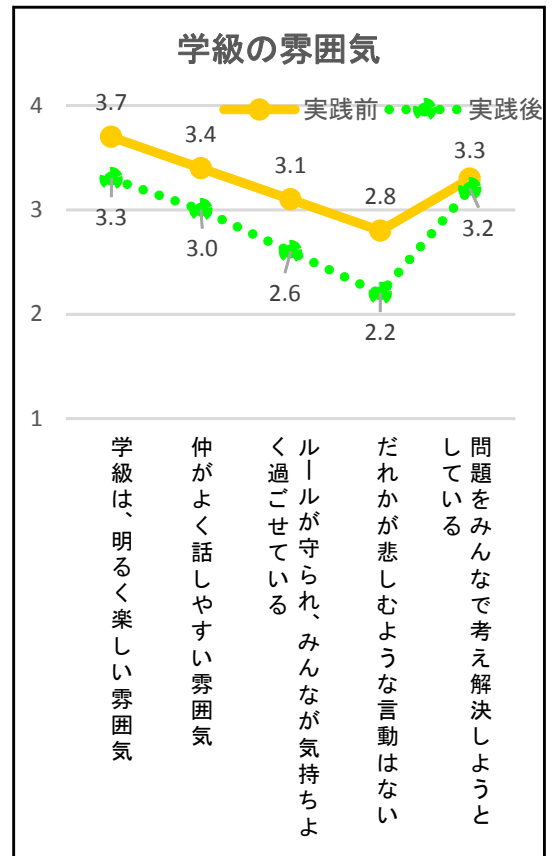


図5 児童の学級の雰囲気に対する意識と行動の変化(項目別)

【検証の視点Ⅱ-B：友達との関係】

オ 検証内容と検証方法 について

↑こちらをクリックすると、検証の視点を見ることができます。

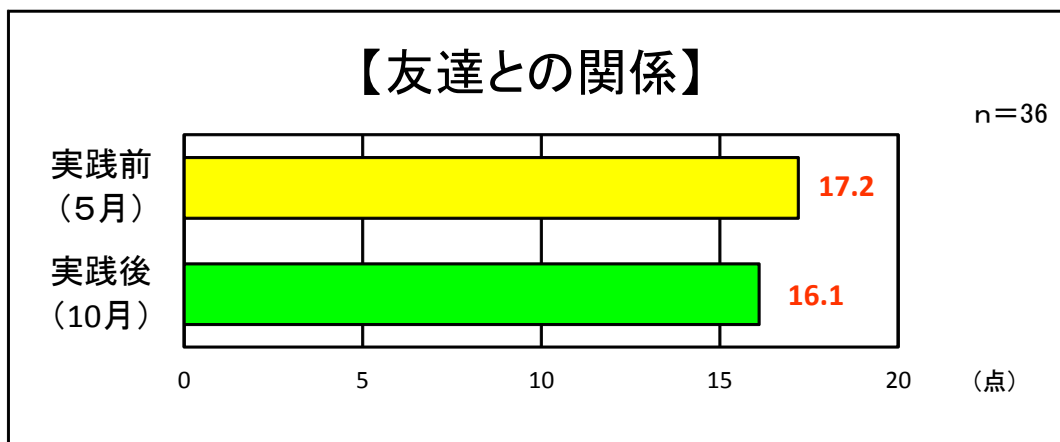


図6 児童の友達との関係に対する意識と行動の変化(全体)

○活動プログラムにおける授業実践の前後で、数値が1.1ポイント下がりました（前頁図6）。友達との関係における5つの質問項目を見ると、3つの項目で数値が下がっていました。一方、児童のワークシート等には、「もし、誰かがけんかをしていたら、間に入ってやさしく話を聴こうと思った」「もめている2人の間に入るのは難しいけれど、トラブル解決のポイントを使ってトラブルを解決しようと思った」という記述が多く見られました。このことから、数値が下がった理由として、児童がグループでの活動を通して、友達への配慮や言葉の掛け方についての意識を高めたことにより、友達との関係を厳しく評価したと考えられます。

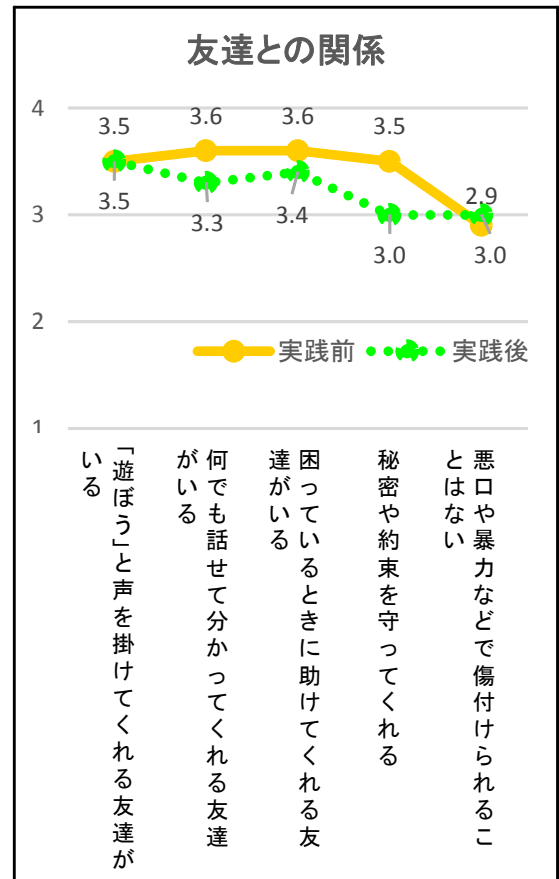


図7 児童の友達との関係に対する意識と行動の変化(項目別)